

教育を考える

選 択

開講年次：2年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：本科目には、共通科目の締め括りとして、「新たな価値を発見する柔軟な発想力」（デザイン）、「医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力」「課題解決力を高めるための自己研鑽能力」（看護）の獲得につながることを期待されている。「価値の発見」「調整・指導」「自己研鑽」はどれも現代社会において重要とされている。それは単に生き抜くために必要な能力としてではなく、人間の生き方に尊厳と価値を認め、それを豊かにしていくことにつながる文化創造、社会的関係の実現につながるものととらえることが大切である。

授業では、まず、理想と現実のはざま、人びとが教育にどんな期待をし、どのような工夫や努力を行ってきたかを理解していく。また、現代の教育問題、国内外の改革論議などを題材にしなが、教育と人間に関する考察を深めていく。さらに、現場の見学、実践者との交流など、生きた教育を通じて「教育を考える」機会を設けたい。最終的な目標は、教育を見る目を鍛え、受講者自身が自由で創造的な人間社会をつくっていく主体となることである。

- 到達目標**：①自身の教育経験を対象化し、客観的にとらえることができる。
②〈人間を学ぶ主体として成長させるための智慧〉について、その意義や現代的課題を述べるができる。
③教育の世界の経験や問題から受けた示唆をもとに、デザインまたは看護についての自身の考えを深めていくことができる。

■**担当教員**：光本 滋

■**授業計画・内容**：授業は、おおむね2～4回をユニットとして、一つのテーマを深めていく。

第1～4回 わたくしたちが受けてきた教育はどのようなものだったか

ガイダンス／世代と教育経験／人間の発達と教育／教育の自由と権利

各自の教育体験をふりかえり、わたくしたちの教育認識を対象化します。一人ひとりの体験は個別的ですが、他者との共通性もあります。それは何なのか、なぜ、いつからそうなったのか、そして、教育の意義と課題について考えます。

第5～6回 子どもの学びと大人の学び

人間が大人になるとはどういうことか／学校の学びと社会の中の学び／生涯学習の課題

教育は子どもだけのものではありません。子どもと大人の学び方の違いなぜ起こるのか、社会の中の学びと対比したときに見える学校教育の特徴、人間の生涯にわたる発達と学習の課題について考えます。

第7～8回 教師・実践者の仕事を考える

子どもの苦悩と向き合う／子どもの学びと社会認識／教師・実践者の学びと成長

教師の仕事は教科を教えることだけではありません。教科教育を通じて、それ以外の場面で何を考え行動してきたのか。そして、自らの社会的役割をどのように認識してきたのか考えます。

第9～12回 学校改革の課題を考える

親の教育要求と学校改革／学校づくりと子どもの参加／地域・社会の中の学校改革

学校が、親や地域住民など外部の人びとの要求とどのように向き合ってきたのか、向き合っていくべきなのか。学校が社会とかわかっていくこと、学校づくりと子どもの参加の教育的意義を考えます。

第13～15回 教育をデザインする／教育の現場から考える

わたくしたち自身が教育をデザイン（計画）する主体になる道筋について考えます。実際の学校等に出かけ、現場の経験と知恵から学びます。2016年度は、札幌市資生館小学校、北海道大学病院にある院内学級を訪問しました。

■**教科書**：特定の教科書は用いない。プリント資料を配付する。

■**参考文献**：授業の中で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：小テスト・授業内レポート（60%）。ワークショップ（発表、課題・作品）（40%）

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
小テスト・授業内レポート	30%	40%		各回のポイント理解	60
授業態度					
発表			20%	検討の水準・構成の工夫	20
課題・作品			20%	論点設定、構成、結論の説得力	20
出席					
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：基本となる考え方を理解し、その適用の可能性や課題について、自身の言葉で考えることができるようになってほしいと思います。一方的な講義ではなく、受講者と教員との双方向的なやりとり、ディスカッション、グループワークなどの要素も取り入れます。受講者にも授業中に報告を求めることがあります。